

## ■第53章

- 1) モノフォニー(monophony)
  - 2) ポリフォニー(polyphony)
  - 3) ホモフォニー(homophony)
  - 4) 対位法(counterpoint)
  - 5) 和声法 (law of harmony)
- 

現代の一般的な音楽におけるハーモニーの理論は、クラシック音楽によって基礎が作られ、現代のポピュラー音楽やジャズの理論へ至ります。それらは基本的な事柄は共通していますが、それぞれ違った考え方として捉えられます。

### 1) モノフォニー(monophony)

一つの旋律だけで構成される音楽の事を「モノフォニー」(monophony/単旋律)と言います。初期のグレゴリオ聖歌（ローマ聖歌）など8～9世紀頃の音楽はモノフォニーで構成され、「モード」(mode/旋法)が持つ性格や雰囲気表現していました。また、基本的な一つの旋律を複数の楽器や歌手がリズムやテンポをずらす事によって、一時的に複数の声部が現れる事があり、その音楽を「ヘテロフォニー」(heterophony)と呼びます。

### 2) ポリフォニー(polyphony)

複数の声部からなる音楽を「ポリフォニー」(polyphony/多声音楽)と言い、10世紀頃から表れ、15～16世紀に最盛期を迎えました。ある旋律に対して音が加えられるのではなく、それぞれの声部が同等な立場として構成され、「モノフォニー」や「ホモフォニー」(※後述)とは相対的な関係にあります。

### 3) ホモフォニー(homophony)

旋律と伴奏としての和音が分かれている音楽を「ホモフォニー」(homophony)と言います。ホモフォニー的な音楽が一般的になったのは18世紀後半で、クラシックではこの時代の音楽を「古典派」と呼びます。現在の音楽で一般的に聞かれるポピュラー音楽の多くは「ホモフォニー」の音楽であると言えます。